



秩父神社の川瀬祭

# かわはく No.28

## CONTENTS

平成18年度企画展 「水辺のまつり」	2
かわはくの展示から マンホール	4
川辺の生き物百科	5
川の博物館と学校対応	5
電子顕微鏡の世界(5)- ヒダリマキゴマガイ -	6
荒川支流を訪ねる - 都幾川と野本將軍塚古墳 -	7
かわはくで学ぼう	8



## 平成18年度企画展Ⅱ

# 「水辺のまつり - 受け継がれてきた川への祈り - 」

開催期間 平成19年3月17日(土)～5月6日(日)

現在に暮らしている私たちは日常生活の中で、川や水に思いを巡らせる機会は少なくなっています。

しかし、戦後の高度経済成長期を迎える頃まで、川は命の源となり恵みをもたらすものとして、また時には疫病をもたらし、水害や水難などの災害を引き起こす恐ろしい力を持つものとして、人々の生活に深く関わっていました。今回の展示では、埼玉県内を中心に古代から現在まで人々が川に何を思い祈ってきたのかその一端を紹介します。

### 発掘された古代の川とまつり

#### (1) 神を迎えてなす

発掘調査により河川跡が発見されることがあります。深谷市城北遺跡の河川跡からは大量の土器が出土しました。川辺で神を迎え祈りを捧げていたと思われます。

また、東京都足立区伊興遺跡では、平安時代の神の姿を描いたとされる「騎馬木札」が出土しています。当時、遺跡北側を流れる毛長川は細流化しつつあったと思われ、流れを取り戻そうと祈ったのでしょうか。



騎馬木札

#### (2) 川で流し清める

現在でも各地の神社などで6月と12月の晦日に「大祓い」などと呼ばれる「人形」を川に流す祭祀が行われています。この大祓いの原点は1200年ほど前に遡ります。県内でも熊谷市諏訪木遺跡の河川跡から、木製の人形や馬形などが出土し、こうした祭祀が行われていたことがわかります。

#### (3) 生まれくる流れに祈る

熊谷市西別府祭祀遺跡は湧水地の祭祀として古墳時代から現在まで使用されている珍しい例です。

古墳時代から平安時代までは、湧水地で祭祀が行



城北遺跡第5号祭祀跡から出土した土器



諏訪木遺跡の河川跡から出土した形代

われました。それ以降は、湧水点の崖上に祭祀の場が移り、現在の湯殿神社へと受け継がれています。

#### (4) 川で見つかったオビシャの原点

東松山市反町遺跡の河川跡から「神矢」「弓」と墨書された土器や鏃、的と思われる竹製品が出土しました。岸から弓を射る神事が行われたと推定されます。現在でも埼玉県東部では、弓的を射る行事があり、「オビシャ」「ブシャ」「ユミブチ」などと呼ばれています。この遺跡はこうした祭祀の原点を探る貴重な手がかりとなるものです。



「神矢」墨書土器



## よみがえる中世の御船祭

さいたま市緑区宮本の氷川女體神社<sup>にょたい</sup>では、御船祭が行われていたことが江戸時代に編纂された『新編武藏風土記稿』に書かれています。この祭りは現在の下山口新田に祭竹と呼ぶ竹を立てた御旅所<sup>おたびしよ</sup>を設け、氷川女體神社から船に神輿<sup>みこし</sup>を載せ渡御<sup>とぎよ</sup>するものでしたが、江戸幕府の新田開発政策により、享保12(1727)年に見沼が開墾され水田となり行われなくなりました。

平成元(1989)年に下山口新田で行われた発掘調査により多くの祭竹と古銭が出土し、ここが御旅所であったことが分かりました。文献に残る祭祀場が確認された貴重な資料です。

## 祇園祭にみられる川辺の祭事

### (1) 祇園祭と川

京都の祇園祭は、平安時代に疫病<sup>えきびょう</sup>などをもたらす怨霊<sup>おんりょう</sup>を鎮めるために開かれた御霊会<sup>ごりょうえ</sup>が原点です。

疫神<sup>やくがみ</sup>から人々を守るという祇園信仰の基本には異界からやってくる疫神を乗せる神輿を作り、神を喜ばせ満足したら境界である水辺に流すという境界祭祀があります。この意識は祇園祭の中で現在も神輿渡御として受け継がれています。

### (2) 埼玉県での祇園祭と神輿渡御

埼玉県西部では祇園祭の時に神輿を川に入れる地域があります。秩父地方では村回りにより悪疫をたくさん背負った神輿から悪疫を洗い流すため激しく川の中で揉みます。一方、利根川流域では担ぎ手たちが川の中で力比べをしたり、神輿から川に飛び込むなど勇壮で勢いがある神輿洗いがみられます。

このほか、県東部では数珠<sup>じゆず</sup>を川に入れたり、獅子頭などを疫神送りに利用する地域があるなど、県内の祇園祭は川と関連する祭事が地域色豊かに行われています。

(環境担当 末木 啓介)



御船祭に使われた神輿（県指定文化財）



折原の川瀬神事（寄居町）



葛和のあばれ神輿（熊谷市）



前原のお獅子様（宮代町）



かわはくの展示から

## マンホール

埼玉県立川の博物館には館内の展示ばかりではなく、屋外にもさまざまな展示物があります。シンボリックな役割のある日本で2番目に大きい「大水車」(直径23m)や荒川の源流から河口までの長さを1,000分の1に縮尺した日本一の屋外精密地形模型である「荒川大模型173」、本館の北側の壁面にある河合玉堂が大正5(1916)年に描いた屏風絵「行く春」(重要文化財、東京国立近代美術館所蔵)をもとに約2.8倍に拡大して陶板に焼き付けた陶板絵などは展示物としても大きく、来館すれば必ずと言っていいほど目に付くものです。しかしながら、こういった大きな屋外展示物の陰に隠れて余り目立っていない展示物もあります。今回はその中からマンホールについて紹介したいと思います。

そのマンホールは本館の北側、本館の出入り口から溪流観察窓へ向かう通路の途中、トイレと溪流観察窓入り口の間に位置しています。本館から来ると、通路の左側、トイレの表示板の後ろに高さ23cmほどの平らな石が見えてきます。これがマンホールの枠組みに使われた石です。実際に使われていた頃は道路に埋め込まれ、マンホールと道路は平らになっていましたが、展示するためにわざと通路よりも高く埋め込んでいます。上から見ると7枚の扇形の石枠(直径約120cm、花崗岩製)で囲まれたマンホール

のふた(直径59.8cm)とふたを受ける枠(直径67.0cm、幅3.4cm)があります。いずれも鋳物製で重厚感が感じられます。近くの説明板には「このマンホールは、昭和20年代に浦和市の県庁裏門通りに雨水管用とし



上から見たマンホール

て設置されたものです。昭和34年からは、雨水と下水の合流管として平成7年2月まで使われていました。鋳物製のふたと受枠が、厚さ25cmもある花崗岩で固定された重厚な作りが特徴です」と書かれています。これにより、このマンホールが現在のさいたま市浦和区にある裏門通り(うらもん商店街)に昭和20年代に設置されたマンホールであることがわかります。現在のマンホールの多くには、ふたにさまざまな絵や自治体のシンボルマークなどを鋳出していますが、このマンホールはシンプルなデザインが施されており、マンホールの歴史を感じさせてくれます。このマンホールは、場所的にも余り展示物として認識されていないようで、ふたや枠組みの石の表面に靴跡などがついていることがたまにあります。是非とも大切にしていただけのようにお願いします。



マンホールの位置(左が溪流観察窓入り口、右がトイレ、上には陶板画が見える)

(展示担当 渡 政和)



# 「川辺の生き物百科」

## オオイヌノフグリ (ゴマノハグサ科) *Veronica persica* Poir.

ヘクソカズラ(屁糞葛)、ハキダメギク(掃溜菊)、ママコノシリヌグイ(継子の尻ぬぐい)、ヘチマ(もとの名前は果実から繊維が取れるので「糸瓜」、これが後に「とうり」と訛った。「と」は『いろは歌』で「へ」と「ち」の間にあるので「へち間」)、このように、植物には、へんな名前が結構あります。もし、植物が喋れたら“訴えてやる”と叫んでいたかもしれません。実は、オオイヌノフグリもそんなのです。

春早く、空き地や道端にコバルト色のかわいらしい花が咲くのを知っていますか。名前は知らなくても、誰もが見たことのある植物です。オオイヌノフグリは今から百年くらい前にヨーロッパからやってきた帰化植物で、今では日本中のいたるところで見られます。右の写真は、オス犬の後ろ姿です。イヌノフグリとは果実の形からついた名前で、二つ並ん

だように見える果実を犬の「ふぐり」にみたてたものです。「ふぐり」とは陰囊のことです。

イヌノフグリが日本の在来種で、同属のタチイヌノフグリも帰化種です。

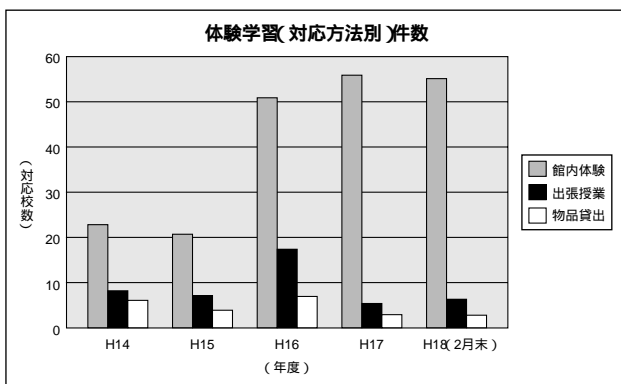


イヌノフグリの果実 (教育普及担当 寺尾 好夫)

## 川の博物館と学校対応

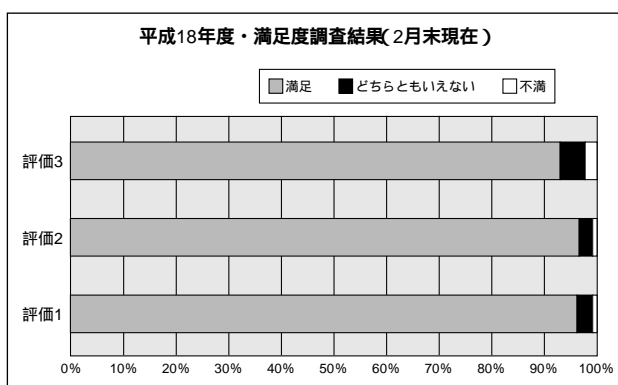
当館では、年間350校を超える学校の利用をいただいています。学校での利用扱いは、社会科見学、総合学習、理科学習、学校行事(新学年の学年・学級作り等)の順に多種多様です。

その中で、博物館での体験学習等の対応件数は、下のグラフのように過去5年間を推移しており、年間60校前後です。



また、体験学習の際、どの程度の満足度が得られているのかを以下の評価項目で調査しました。

- 評価1 やったことがよくわかりましたか?
- 評価2 やったことがおもしろかったですか?
- 評価3 新しい発見がありましたか?



結果をまとめると、上のグラフのようになりました。満足度95%以上と高い評価をいただいています。

こうした状況にあって、平成20年度指定管理者制度導入に向けて、学校対応をどのように変えていくのが、現在の大きな課題です。

“魅力ある体験”とひとことでいいますが、なかなか難しいものです。学校の学習目的により密接に関わりを持たせなければ、博物館の有効活用に結びつかないからです。館の方針を踏まえ、多くの先生方からいただいた貴重な意見や要望を体験内容に反映しつつ、今後、具体化していきます。

(教育普及担当 福島 智)



## 「電子顕微鏡の世界(5)」 - ヒダリマキゴマガイ -

走査型電子顕微鏡(Scanning Electron Microscope、略称SEM)と聞くと何を連想しますか。一般的には、非常に高倍率で、光学顕微鏡では見ることのできないミクロの世界でしょうか。しかし、目的によっては低倍率で観察することもあります。画像が立体的で解像度が高いことから、微細な表面構造をみるのに適しています。

今回は、カタツムリの仲間、前鰓類のヒダリマキゴマガイの貝殻を観察しました。種名は、貝殻が左に巻きゴマ粒のように小さいことに由来しています。落葉広葉樹林下や杉林の落葉下などで生活している白くて美しい微小貝です。

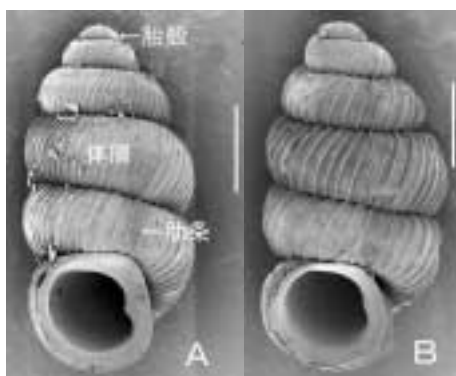
写真1は、2個体を50倍で撮影したものです。両者とも殻高約2mm、殻径約1mmの大きさです。貝殻の表面には、肋条(ろくじょう)が、規則正しくほぼ等間隔で、殻頂付近から殻口部までみられます。これを詳しくみると、AとBでは肋条の数が異なります。そこで5層の体層のうち、写真でわかる3層の肋条を数えたところ、Aは84、Bは63となり、両者で差があることがわかりました。

一方、殻頂部を拡大した写真2では、肋条が無いことがわかります。この部分は胎殻(殻頂から約1.5層の部分)といって、卵から孵化した時もっていた貝殻です。カタツムリの貝殻はこの胎殻の殻口部から外套膜によってつくられ、成長すると言われています。ここでは、小さな肋条が体層の下部(写真2)からあらわれることがわかりました。

次に、この肋条を拡大してみました。写真3は殻口付近の体層です。写真3-1、-2で肋条の様子がわかります。肋条は、貝殻の表面(殻皮?)が凹型に連続して盛り上がっている不思議な構造をしています。そこで、この部分をさらに拡大すると(写真4-1、-2(写真3-2同部分))、この盛り上がった肋条の片側の欠損部(黒色部)がみえ、2枚が合わさっていることがわかりました。

「かわはく」の走査型電子顕微鏡が教えてくれた貝殻の表面構造には、どんな意味があるのでしょうか。微小貝が作り出す不思議に充ちた美しい造形に大変興味をもちました。

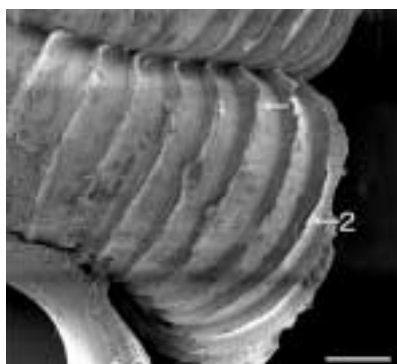
(環境担当 松本 充夫)



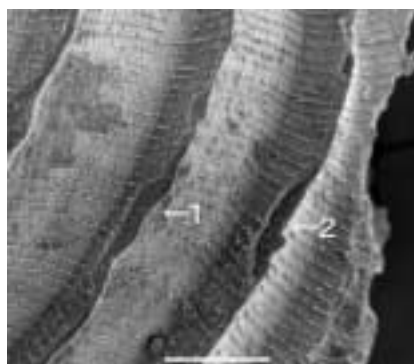
**写真1**  
ヒダリマキゴマガイ(A:肋条多い、B:肋条少ない)  
50倍  
スケール500 $\mu$ m



**写真2**  
胎殻 印、肋条  
があらわれる部  
分 200倍  
スケール100 $\mu$ m



**写真3**  
殻口付近の体層 写  
真1 B)150倍  
スケール100 $\mu$ m



**写真4**  
肋条の欠損部  
500倍  
スケール50 $\mu$ m



## 荒川の支流を訪ねる - 都幾川と野本將軍塚古墳 -

都幾川の<sup>ほとり</sup>辺に県内第2位の規模(115m)を誇る野本將軍塚古墳(前方後円墳)があります。この古墳は、築造時期が不明の謎の古墳です。墳頂が削平され、埋葬施設が消滅してしまったのではないかと危惧されていました。

鎌倉時代、後円部墳頂に半円を描くように6基の経塚が造られました。しかし江戸時代の『新編武蔵風土記稿』「將軍塚之図」には、それらを含め何も描かれていません。つまり、墳形を大きく変える大きな造成は行われなかったことが分かります。明治34年(1901)、墳頂を削平して鎮守府將軍藤原利仁を祀った神社が再建されました。その時、先の経塚が調査され経筒などが発見されました。この時の様子を報告した根岸武香は考古学にも造詣の深い人物ですが、古墳時代の遺物に関わる記載は存在しません。埋葬施設は、温存されたのでしょうか。その後、ボーリング調査が行われ、埋葬施設が遺存していることを予想される結果が得られました。

近年、本古墳が見下ろす都幾川低地の銭塚・反町遺跡が調査され、同古墳の解明に重要なヒントを与えてくれることになりました。本遺跡は、古墳時代の集落で多くの竪穴住居跡や古墳が検出されました。また高床建物の木製扉、お祭り用の剣・鏡・玉などの石製模造品、貴重な須恵器の他、関東では例のない水晶や碧玉を加工する宝飾製作工房跡が発見されました。水晶は山梨県産、碧玉は近接する市内葛袋産のようです。碧玉の製作

工房は、下流3.8kmに位置する川島町正直玉作遺跡でも見つかっています。これらは、古墳時代前・中期(4・5世紀)のものだと推定されます。

また対岸の前方後円墳の諏訪山29号墳(53m)や前方後円墳の同35号墳(75m)は、4世紀代に築造されたものであり、これらとの関連も考えなければなりません。

そして本古墳に密接に、しかも直接関係すると考えられるのが、北方1.5kmに位置する五領遺跡です。本遺跡は畿内や東海地方などの影響を受けた土器の他、古墳に副葬されるべき碧玉製の石釧(宝飾品)が出土するなど、特異であるばかりでなく、且つ極めて大きな集落なのです。

將軍塚古墳そのものの特徴や周辺遺跡の状況から推測すると、本古墳は4世紀代まで遡る可能性が高いと言えましょう。墳丘下に4世紀の竪穴住居跡が存在しましたが、これはムラを強制的に移動させた結果なのかもしれません。仮に4世紀の古墳であることが確定すれば、埼玉県歴史は大きく書き換えられることとなります。最後に、本古墳に水晶や碧玉製の装飾品が埋納されていることを予測しておきます。

《参考》江口尚史1986『埼玉県古式古墳調査報告書』  
(教育普及担当 中村 倉司)



野本將軍塚古墳



都幾川と周辺遺跡

## 4月

3/17/土~5/6/日 企画展「水辺のまつり」

14/土 わくわくサタデーミュージアム サンドアート「砂絵」

時間：10:30~ 14:00~ 定員：32人(申込順) ☺  
費用：200円

内容：色砂や荒川の砂を使って、砂絵を作ります。

15/日 映画会「三ねん寝太郎」

時間：13:30~ 定員：80人(先着順) 費用：無料

内容：子供向けの映画です。

21/土 企画展記念講演会

時間：13:30~15:00 定員：80人(申込順) ☺

内容：「川の祭祀と古代人」

講師：須田 勉

28/土 企画展関連イベント「見沼の歴史と自然を歩く」

時間：9:30~15:30 定員：40人(申込順) ☺ 費用：100円

28/土 わくわくサタデーミュージアム「野草観察と押し花カードづくり-春-」

時間：10:30~ 14:00~

定員：32人(申込順) ☺

費用：100円

内容：春の植物を使って、押し花カードを作ります。



## 5月

3/木~6/日 ゴールデンウィーク特別イベント

内容：子供向けイベント、映画会等。

12/土 わくわくサタデーミュージアム「スト-ンペインティング」

時間：10:30~ 14:00~ 定員：32人(申込順) ☺

費用：100円

内容：河原の石を使って、色塗りをします。

13/日 ボランティア説明会

時間：10:00~12:00

内容：ボランティア希望者への概要説明

20/日 映画会「地球SOSそれゆけコロリン」

時間：13:30~ 14:30~ 定員：80人(先着順) 費用：無料

内容：子供向けの映画です。

26/土 わくわくサタデーミュージアム「手作り水鉄砲で的当てゲーム」

時間：10:30~ 14:00~

定員：32人(申込順) ☺

費用：100円

内容：竹を使って水鉄砲をつくり、的当てゲームをします。



# かわはくで学ぼう!!

## イベント情報コーナー

## 6月

2/土 親子で野外体験「秩父湖を訪ねる」

時間：8:00~ 定員：40人(申込順) ☺ 費用：1000円

内容：バス利用

3/日 環境の日記念イベント

時間：10:30~ 13:30~ 内容：水の汚れと水質調べ

9/土 わくわくサタデーミュージアム「スト-ンペインティング」

時間：10:30~ 14:00~ 定員：32人(申込順) ☺

費用：100円

内容：河原の石を使って、色塗りをします。

10/日 ボランティア研修会

時間：10:00~16:00

内容：ボランティア申し込み者対象の研修

17/日 映画会「健太のトンボ日記」

時間：13:30~ 定員：80人(先着順) 費用：無料

内容：子供向けの映画です。

23/土 わくわくサタデーミュージアム「手作り水鉄砲で的当てゲーム」

時間：10:30~ 14:00~

定員：32人(申込順) ☺

費用：100円

内容：竹を使って水鉄砲をつくり、的当てゲームをします。



## 7月

1/日 川の日記念イベント

時間：10:30~ 13:30~ 内容：七夕づくり

14/土 わくわくサタデーミュージアム「スクリュー船をつくろう」

時間：10:30~ 14:00~ 定員：32人(申込順) ☺

費用：200円

内容：形や大きさを工夫して、よく進む船を作ります。

15/日 映画会「那須疎水物語」

時間：13:30~ 14:30~ 定員：80人(先着順) 費用：無料

内容：子供向けの映画です。

28/土 わくわくサタデーミュージアム「化石の模型をつくろう」

時間：10:30~ 14:00~ 定員：32人(申込順) ☺

費用：100円

内容：型を使って色々な化石の模型を作ります。

29/日 かわはく夏祭り

時間：10:00~16:00

内容：各種子供向けイベント。



毎月第2・4土曜日10:30~と14:00~は「わくわくサタデーミュージアム」・毎月1回(日曜日)13:30~は「映画会」が開かれます。最新の情報はかわはく情報等で紹介されます。

ホームページでも紹介しています!

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】 行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。 ☺印のついた行事は事前申込みが必要です。電話またはFAXでお申し込みください。 定員になりしだい締め切ります。 川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL / 048-581-8739(学芸) FAX / 048-581-7332

R100

古紙粉砕率100%再生紙を使用しています

PRINTED WITH SOY INK

2007年3月16日発行